

平成22年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	宮崎県		市町村類型	IV-1	指定団体等の指定状況		区分		平成22年度(千円)	平成21年度(千円)	区分		平成22年度(千円・%)	平成21年度(千円・%)							
					財政健全化等	×	歳入総額	75,076,877	72,201,944	実質収支比率	2.7	2.7									
市町村名	都城市		地方交付税種地	1-4	財源超過	×	歳出総額	72,567,852	70,937,765	経常収支比率	85.7	90.6									
人口	22年国調(人)	169,602	産業構造		財源超過	×	歳入歳出差引	2,509,025	1,264,179	(※1)	(93.9)	(96.2)									
	17年国調(人)	170,955			首都	×	翌年度に繰越すべき財源	1,377,296	167,986	標準財政規模	42,452,038	40,994,053									
増減率(%)		-0.8	区分	17年国調	12年国調	近畿	×	実質収支	1,131,729	1,096,193	財政力指数	0.50	0.52								
		-0.3		第1次	9,715	10,307	中部	×	単年度収支	35,536	5,971	公債費負担比率	19.5	20.7							
住民基本台帳人口	23.03.31(人)	170,969	第2次	21,474	23,546	山振	○	積立金	551,274	549,601	健全化判断比率	-	-								
	22.03.31(人)	171,506		12.0	12.5	低開発	○	繰上償還金	920,587	522,863	実質赤字比率	-	-								
面積(km ²)		653.31	第3次	21,474	23,546	指数量選定	○	積立金取崩し額	551,274	549,601	連結実質赤字比率	-	-								
	人口密度(人/km ²)	260		26.4	28.6	増減率(%)	-0.3	実質単年度収支	956,123	528,834	実質公債費比率	11.2	12.0								
世帯数(世帯)		69,856	49,519	48,429	標準税収入額等		基準財政収入額	15,312,609	16,012,462	将来負担比率	36.6	52.4									
職員の状況					60.9	58.8	基準財政需要額	31,822,373	31,782,842	資金不足比率(※3)											
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	標準税収入額等	19,570,869					20,455,755							
	市区町村長	1	9,400	一般職員	1,323	4,338,117	3,279	経常経費充当一般財源等	37,098,775	37,138,767											
	副市区町村長	2	7,150	うち消防職員	176	544,720	3,095	歳入一般財源等	50,604,787	47,429,983											
	取入役	-	-	うち技能労務職員	84	283,416	3,374	地方債現在高	78,267,544	80,174,990											
	教育長	1	6,750	教育公務員	19	77,314	4,069	うち公的資金	53,935,215	55,287,603											
	議会議長	1	5,000	臨時職員	-	-	-	債務負担行為額(支出予定額)	18,233,695	4,707,809											
	議会副議長	1	4,200	合計	1,342	4,415,431	3,290	収益事業収入	-	-											
	議会議員	32	4,000	ラスパイレス指数			97.7	土地開発基金現在高	1,741,097	2,591,968											
一般会計等の一覧					公営企業(法非適)の一覧					関係する一部事務組合等一覧					地方公社・第三セクター等一覧						
項番		会計名		項番		会計名		項番		会計名		項番		組合等名		項番		団体名		(※2)	
(1) 一般会計				(4) 国民健康保険特別会計(事業勘定)				(9) 水道事業会計				(10) 都城市食肉センター特別会計				(20) 宮崎県市町村総合事務組合(交通災害共済事業)				(24) 都城森林組合	
(2) 都城市整備基地特別会計				(5) 国民健康保険特別会計(診療施設勘定)								(11) 都城市下水道事業特別会計				(21) 宮崎県自治会館管理組合				(25) 都城市土地開発公社	
(3) 都城市都市開発資金特別会計				(6) 後期高齢者医療特別会計								(12) 都城市公設地方卸売市場事業特別会計				(22) 宮崎県後期高齢者医療広域連合(一般会計)				(26) 社会福祉法人 常陸社会福祉事業団	
				(7) 老人保健特別会計								(13) 都城市農業集落下水道事業特別会計				(23) 宮崎県後期高齢者医療広域連合(事業会計)				(27) 財団法人 都城圏域地場産業振興センター	
				(8) 介護保険特別会計								(14) 都城市御池簡易水道事業特別会計								(28) 財団法人 都城市文化振興財団	
												(15) 都城市簡易水道事業特別会計								(29) 都城まちづくり 株式会社	
												(16) 都城市電気事業特別会計								(30) 株式会社 レイク観音	
												(17) 都城市山之口総合交流活性化センター特別会計								(31) 道の駅山之口 株式会社	
												(18) 都城市高城健康増進センター等管理事業特別会計								(32) 青井岳温泉 株式会社	
												(19) 都城市工業用地造成事業特別会計								(33) 高崎町星の郷総合産業 株式会社	
																				(34) 株式会社 くえびこ山田	

(注釈)

- ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
- ※2: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
- ※3: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。

(1) 普通会計の状況 (市町村)

歳入の状況 (単位 千円・%)				地方税の状況 (単位 千円・%)			
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比
地方税	17,841,735	23.8	16,895,223	42.8	普通税	16,895,223	94.7
地方譲与税	1,160,767	1.5	1,160,767	2.9	法定普通税	16,895,223	94.7
利子割交付金	54,106	0.1	54,106	0.1	市町村民税	6,871,857	38.5
配当割交付金	9,373	0.0	9,373	0.0	個人均等割	215,118	1.2
株式等譲渡所得割交付金	4,163	0.0	4,163	0.0	所得割	5,097,846	28.6
地方消費税交付金	1,635,659	2.2	1,635,659	4.1	法人均等割	379,376	2.1
ゴルフ場利用税交付金	26,314	0.0	26,314	0.1	法人税割	1,179,517	6.6
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	8,458,302	47.4
自動車取得税交付金	182,721	0.2	182,721	0.5	うち純固定資産税	8,389,388	47.0
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	424,468	2.4
地方特例交付金	269,541	0.4	269,541	0.7	市町村たばこ税	1,140,596	6.4
児童手当及び子ども手当特例交付金	160,400	0.2	160,400	0.4	鉱産税	-	-
減収補填特例交付金	109,141	0.1	109,141	0.3	特別土地保有税	-	-
地方交付税	21,976,377	29.3	19,116,526	48.4	法定外普通税	-	-
普通交付税	19,116,526	25.5	19,116,526	48.4	目的税	946,512	5.3
特別交付税	2,859,851	3.8	-	-	法定目的税	946,512	5.3
(一般財源計)	43,160,756	57.5	39,354,393	99.6	入湯税	-	-
交通安全対策特別交付金	44,416	0.1	44,416	0.1	事業所税	-	-
分担金・負担金	1,590,711	2.1	-	-	都市計画税	946,512	5.3
使用料	885,724	1.2	62,889	0.2	水利地益税等	-	-
手数料	201,132	0.3	-	-	法定外目的税	-	-
国庫支出金	9,843,296	13.1	-	-	旧法による税	-	-
国有提供交付金(特別区財調交付金)	8,437	0.0	8,437	0.0	合計	17,841,735	100.0
都道府県支出金	5,953,493	7.9	-	-			
財産収入	343,162	0.5	33,207	0.1			
寄附金	142,787	0.2	-	-			
繰入金	1,863,013	2.5	-	-			
繰越金	1,264,179	1.7	-	-			
諸収入	2,737,328	3.6	2,173	0.0			
地方債	7,038,443	9.4	-	-			
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-			
うち臨時財政対策債	3,764,643	5.0	-	-			
歳入合計	75,076,877	100.0	39,505,515	100.0			

区分		平成22年度	平成21年度
徴収率	現年計	97.9	93.3
(%)	市町村民税	98.0	93.8
	純固定資産税	97.5	92.2

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	8,222,027	実質収支	42,033
下水道	1,706,656	再差引収支	-314,548
観光施設	248,274	加入世帯数(世帯)	28,758
と畜場	162,645	被保険者数(人)	50,236
簡易水道	104,459	被保険者	71
国民健康保険	1,546,606	1人当り	125
その他	4,453,387	保険給付費	297

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況 (単位 千円・%)				
目的別歳出の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	338,408	0.5	-	338,405
総務費	9,037,524	12.5	1,282,465	6,693,316
民生費	24,229,584	33.4	372,603	12,150,778
衛生費	4,440,550	6.1	798,781	3,522,436
労働費	266,467	0.4	-	39,731
農林水産業費	4,486,854	6.2	1,392,182	2,882,653
商工費	3,067,960	4.2	342,565	1,284,443
土木費	5,308,976	7.3	2,267,318	3,631,957
消防費	2,462,723	3.4	195,313	2,056,630
教育費	6,377,766	8.8	2,224,263	4,190,760
災害復旧費	2,344,049	3.2	-	1,439,890
公債費	10,206,991	14.1	-	9,864,763
諸支出費	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	72,567,852	100.0	8,875,490	48,095,762

性質別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	37,281,191	51.4	25,514,810	24,301,315	56.2
人件費	11,876,239	16.4	10,956,261	10,689,932	24.7
うち職員給	8,000,786	11.0	7,246,979	-	-
扶助費	15,197,961	20.9	4,693,786	4,667,207	10.8
公債費	10,206,991	14.1	9,864,763	8,944,176	20.7
内 元利償還金	10,206,991	14.1	9,864,763	8,944,176	20.7
内 一時借入金利息	-	-	-	-	-
その他の経費	24,067,122	33.2	18,409,423	12,797,460	29.6
物件費	7,421,178	10.2	5,845,193	5,342,419	12.3
維持補修費	451,681	0.6	344,461	344,461	0.8
補助費等	2,775,750	3.8	2,202,591	1,281,206	3.0
うち一部事務組合負担金	13,844	0.0	13,844	13,423	0.0
繰出金	8,156,500	11.2	7,142,584	5,829,374	13.5
積立金	3,352,171	4.6	2,853,585	-	-
投資・出資金・貸付金	1,909,842	2.6	21,009	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	11,219,539	15.5	4,171,529	-	-
うち人件費	185,717	0.3	157,457	-	-
普通建設事業費	8,875,490	12.2	2,731,639	-	-
うち補助	3,170,826	4.4	294,598	-	-
うち単独	5,440,382	7.5	2,318,859	-	-
災害復旧事業費	2,344,049	3.2	1,439,890	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	72,567,852	100.0	48,095,762	-	-

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率(市町村)

平成22年度 宮崎県都市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

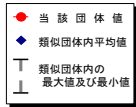
会計名	歳入	歳出	形式収支	実収支	一般会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計				1,132			
2 都市基盤整備地特別会計							
3 都市都市開発基金特別会計							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							
298							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

平成22年度

宮崎県都城市

人口	170,969人	(H23.3.31現在)	実質赤字比率	-%
面積	653.31km ²		連結実質赤字比率	-%
歳入総額	75,076,877千円		実質公債費比率	11.2%
歳出総額	72,567,852千円		将来負担比率	36.6%
実質収支	1,131,729千円		市町村類型	H18 IV-1 H19 IV-1 H20 IV-1 H21 IV-1 H22 IV-1
標準財政規模	42,452,038千円		(年度毎)	H21 IV-1 H22 IV-1
地方債現在高	78,267,544千円			

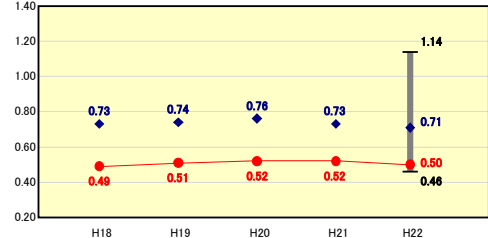


※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

財政力

財政力指数 **[0.50]**

類似団体内順位 19/22 全国平均 0.53 宮崎県平均 0.35

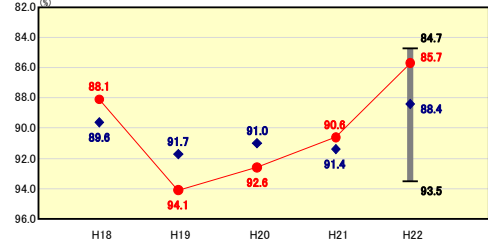


財政力指数の分析欄
 類似団体内順位では依然として下位に位置している。原因としては、依存財源が歳入の約6割を占めていることが示すとおり、地方税などの自主財源が乏しいためである。企業誘致による新たな税収の確保を通じて歳入増を図るとともに、基金繰入や起債発行に頼らずに経常的な歳入の範囲内で歳出予算を編成する「歳入先行の予算編成(予算の枠配分)」を徹底し、財政基盤の強化に努める。

財政構造の弾力性

経常収支比率 **[85.7%]**

類似団体内順位 6/22 全国平均 89.2 宮崎県平均 87.4

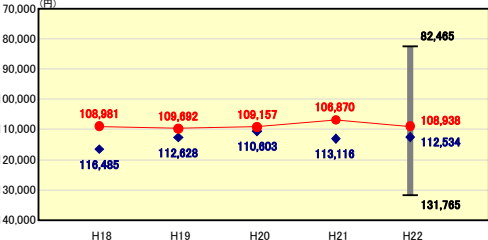


経常収支比率の分析欄
 第1次行財政改革大綱に基づく職員数削減(平成22年度までの5年間で191名削減)、公的資金・民間資金の積極的な繰上償還、新規起債発行の抑制による地方債残高の減(平成22年度末までの5年間で約111億9千万円の減)などの行財政改革の効果により、年々比率は改善している。しかし依然として危険ゾーンにあり、また今後は扶助費及び施設の維持補修費の伸びが見込まれているため、第2次行財政改革大綱に基づき、職員数削減(平成27年度までに140名削減)、民間委託等の推進、公共施設の適正配置・適正活用などに取り組む。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 **[108,938円]**

類似団体内順位 11/22 全国平均 114,985 宮崎県平均 118,556

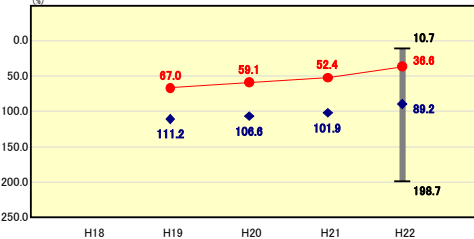


人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 人口千人当たり職員数は類似団体平均を上回っているが、人口1人当たり人件費・物件費・維持補修費の決算額は類似団体平均を下回っている。これは物件費及び維持補修費の経常的な経費の節減の効果であるといえる。しかし今後は老朽化した施設の維持補修費が伸びることが見込まれていることから、職員定数の削減により人件費を抑制することで、さらなるコスト削減を目指す。

将来負担の状況

将来負担比率 **[36.6%]**

類似団体内順位 3/22 全国平均 79.7 宮崎県平均 77.3

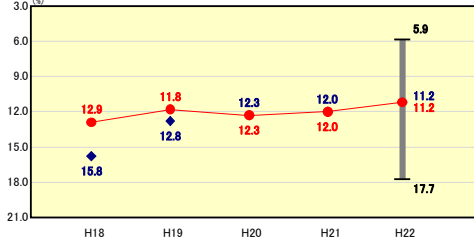


将来負担比率の分析欄
 前年度と比較し15.8ポイント改善し、36.6となった。改善の要因としては、職員数の削減(対前年度比▲28人)に伴う退職手当負担見込額の減(対前年度比▲164百万円)、及び地方債現在高の減(対前年度比▲1,907百万円)などの将来負担額の削減に努めるとともに、充当可能財源である基金を増額(対前年度比+1,460百万円)するなど、行財政改革を積極的に取り組んだ成果である。今後も、計画的な行財政改革を進め、健全な財政運営に努めるものである。

公債費負担の状況

実質公債費比率 **[11.2%]**

類似団体内順位 11/22 全国平均 10.5 宮崎県平均 12.5

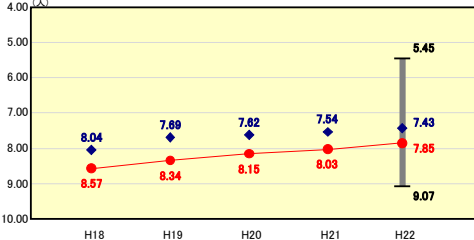


実質公債費比率の分析欄
 前年度と比較し0.8ポイント改善し、11.2となった。改善の要因としては、繰上償還等を除く元利償還金の額の減(対前年度比▲369百万円)が挙げられる。しかし、今後は清掃工場建設などの大型事業を計画しており、次年度以降は年々起債発行額が増加すると見込んでいる。大型事業以外の投資事業計画の整理・縮小を図り、新規発行市債の抑制に努め、健全な財政運営に努めるものである。

定員管理の状況

人口千人当たり職員数 **[7.85人]**

類似団体内順位 12/22 全国平均 7.24 宮崎県平均 7.75

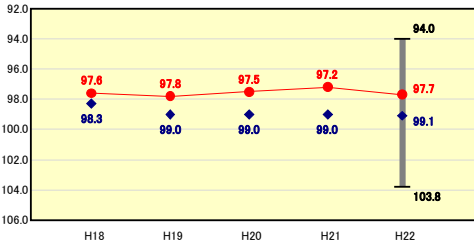


人口千人当たり職員数の分析欄
 平成17年度から22年度までの5年間で職員数削減の目標である140名減を大きく上回る191名減を達成したものの、依然として類似団体平均を上回っている状況である。平成22年度から27年度までの5年間でさらに140名減を目指す。

給与水準(国との比較)

ラスパイレス指数 **[97.7]**

類似団体内順位 5/22 全国市平均 98.9 全国町村平均 95.3



ラスパイレス指数の分析欄
 類似団体平均は下回っているが、引き続き給与体系の適正化に努める。

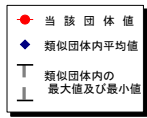
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成22年度

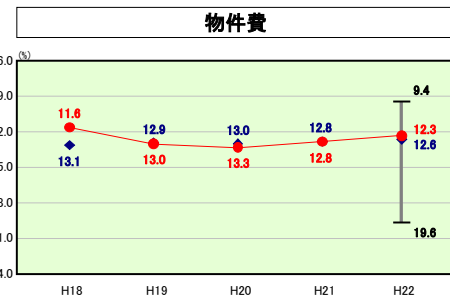
宮崎県都城市

経常収支比率の分析

人口	170,969人	(H23.3.31現在)	実	赤	比	-	%	
面積	653.31	km ²	通	実	赤	-	%	
歳入	75,076,877	千円	算	公	債	11.2	%	
歳出	72,567,852	千円	得	来	負	36.6	%	
実収支	1,131,729	千円	市	町	村			
標準財政規模	42,452,038	千円	(年	度			
地方債現在高	78,267,544	千円	類	型	毎			
			H18	IV-1	H19	IV-1	H20	IV-1
			H21	IV-1	H22	IV-1		



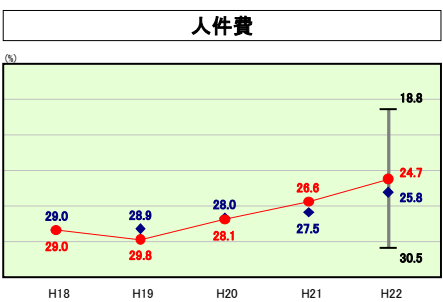
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。



類似団体内順位 13/22 全国平均 12.8 宮崎県平均 11.6

物件費の分析

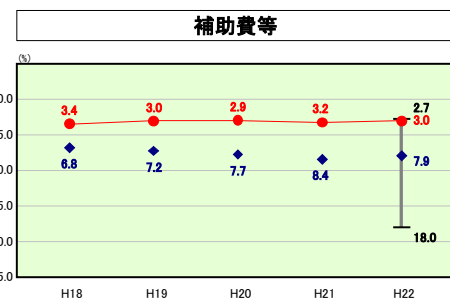
類似団体内でほぼ平均に位置しているが、今後民間委託等を進めていった場合、人件費から委託料(物件費)へシフトすることが考えられるため、引き続き経常的な物件費の圧縮に努める。



類似団体内順位 10/22 全国平均 25.1 宮崎県平均 24.8

人件費の分析

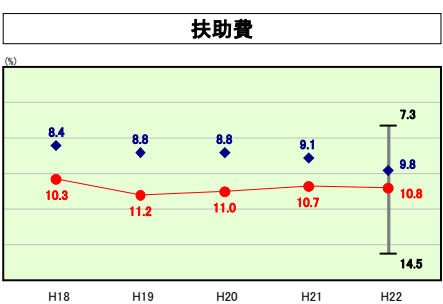
類似団体内でほぼ平均に位置しており、経年変化でも改善の傾向がみられる。職員数の適正化、民間委託等の推進等に取り組み、さらなる人件費の削減に努める。



類似団体内順位 3/22 全国平均 10.1 宮崎県平均 7.5

補助費等の分析

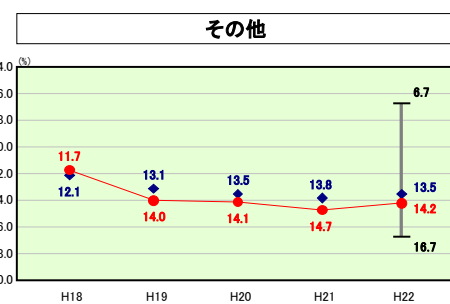
補助費等に係る経常収支比率が類似団体平均を下回っているのは、市町村合併により加入していた一部事務組合が解散したため、一部事務組合負担金等が減った影響である。今後は不適切な補助金の見直し、縮減等を通じてコスト削減を図る。



類似団体内順位 17/22 全国平均 10.4 宮崎県平均 10.8

扶助費の分析

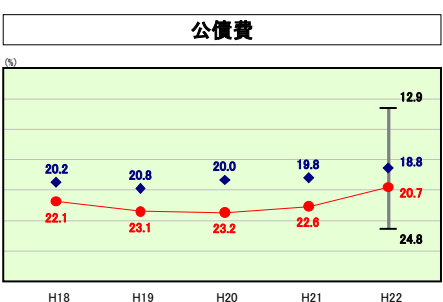
類似団体平均を常に上回っているものの、類似団体が毎年度上昇傾向にある中、平成19年度をピークに下降傾向がみられる。しかし平成21年度を境に上昇に転じており、今後も社会福祉費、児童福祉費、生活保護費を中心に増加するものと見込んでいる。各種審査の適正化、単独扶助費の見直しなどに取り組み、扶助費の適正化を目指す。



類似団体内順位 11/22 全国平均 11.8 宮崎県平均 11.5

その他の分析

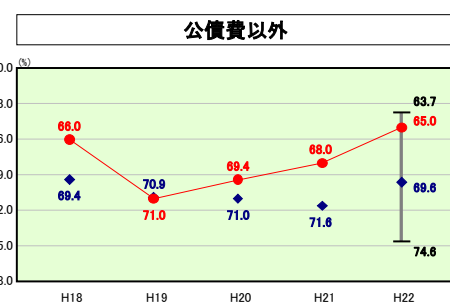
その他の経費に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っているのは、繰出金の増加が主な要因である。介護保険特別会計や後期高齢者医療特別会計、簡易水道事業に係る繰出金が毎年度伸びている。一方で国民健康保険特別会計(事業勘定)への繰出金は、平成18年度から22年度までの5年間で約4億円の圧縮をしており、国民健康保険税や医療費の適正化に取り組んだ成果が表れている。また下水道事業についても平成23年4月に使用料改正を行う。今後も全ての特別会計等において、使用料等の確保、コスト削減等を通じて繰出金の抑制を図る。



類似団体内順位 18/22 全国平均 19.0 宮崎県平均 21.2

公債費の分析

類似団体平均を常に上回っているものの、17年度末から22年度末の5年間にかけ起債残高を約111億9千万円圧縮した効果により平成20年度以降改善している。ただし、今後合併特例期間の後半期に入り合併特例債を活用した大型事業を予定しているため、公債費負担も平成28年度をピークに伸びていくものと見込んでいる。引き続き、引続き、繰上償還、投資事業計画の適正化を通じ、計画的な地方債管理に努める。



類似団体内順位 4/22 全国平均 70.2 宮崎県平均 66.2

公債費以外の分析

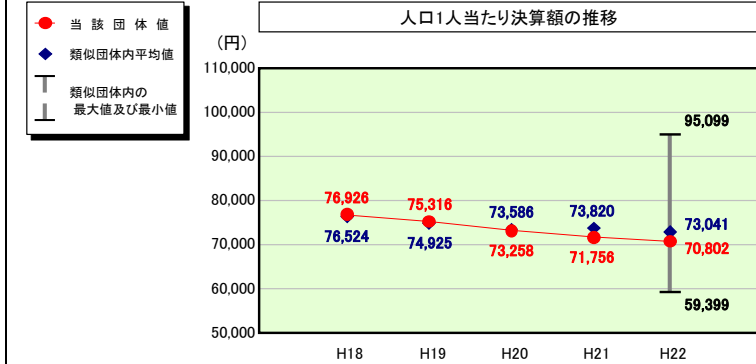
公債費以外の経費に係る経常収支比率は類似団体平均を下回っていることから、公債費の圧縮が今後の財政健全化に向けて課題であることがうかがえる。ただし今後大型事業推進のため多額の起債発行を予定していることから、投資事業計画の適正化等を通じ、さらに適切な地方債管理に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成22年度

宮崎県都城市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



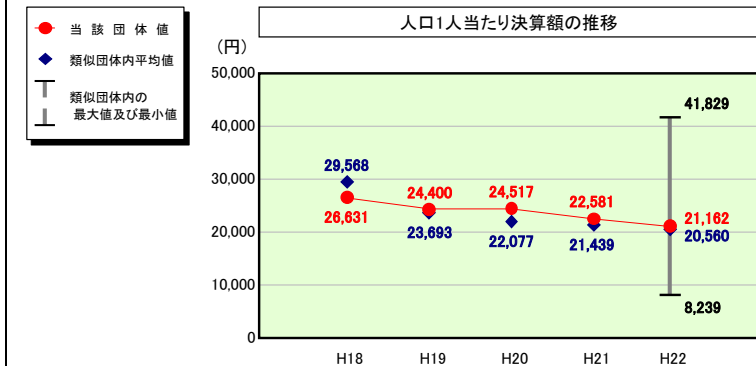
人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	11,876,239	69,464	69,307	0.2
賃金(物件費)	776,296	4,541	3,875	17.2
一部事務組合負担金(補助費等)	205	1	3,373	▲100.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	882	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	0	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	576,322	3,371	2,631	28.1
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	185,717	1,086	1,461	▲25.7
▲退職金	▲1,309,858	▲7,661	▲8,488	▲9.7
合計	12,104,921	70,802	73,041	▲3.1

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	7.85	7.43	0.42
ラスパイレース指数	97.7	99.1	▲1.4

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

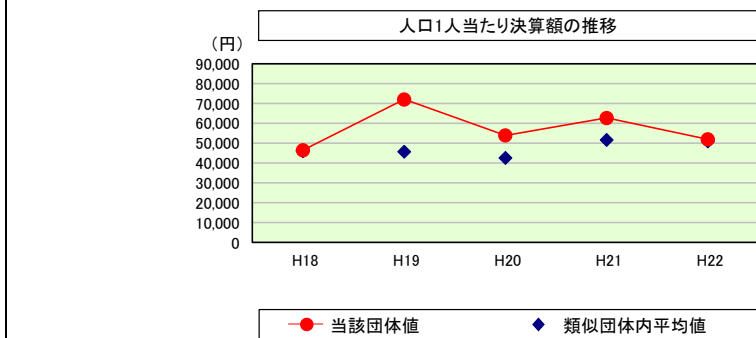


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	9,286,404	54,316	46,713	16.3
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	20	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	41	-
公営企業債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	1,590,053	9,300	13,318	▲30.2
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金に充当する一般財源等額	-	-	1,657	-
債務負担行為に基づく支出のうち公債費に準ずるものに充当する一般財源等額	135,808	794	1,989	▲60.1
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	16	-
▲特定財源の額	▲1,003,603	▲5,870	▲8,449	▲30.5
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲6,390,614	▲37,379	▲34,744	7.6
合計	3,618,048	21,162	20,560	2.9

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

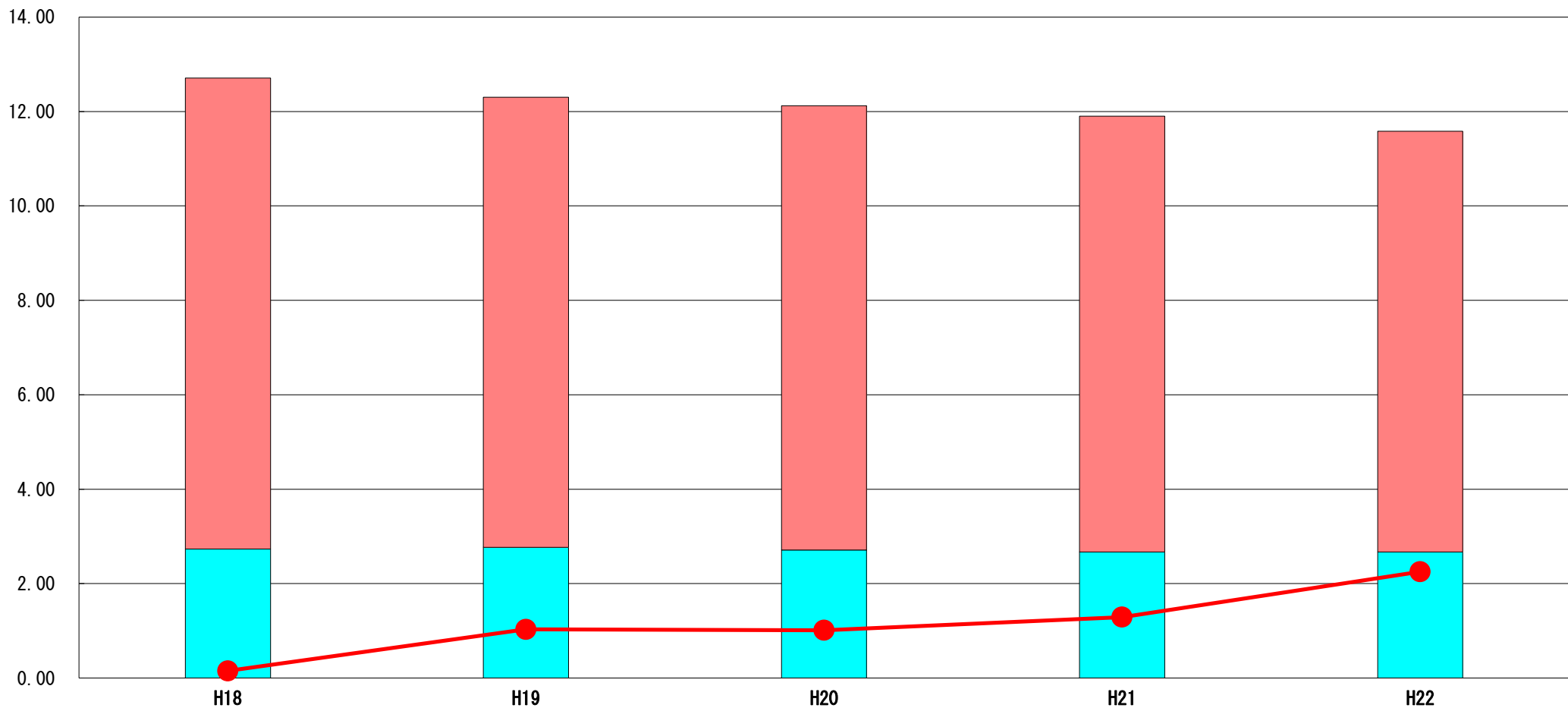
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H18	8,060,262	46,425	▲51.3	46,072	▲1.7	▲49.6
うち単独分	6,104,415	35,160	▲51.4	28,341	▲7.2	▲44.2
H19	12,431,599	71,975	55.0	45,614	▲1.0	56.0
うち単独分	8,035,797	46,524	32.3	28,729	1.4	30.9
H20	9,236,121	53,836	▲25.2	42,470	▲6.9	▲18.3
うち単独分	5,838,225	34,030	▲26.9	26,888	▲6.4	▲20.5
H21	10,746,379	62,659	16.4	51,540	21.4	▲5.0
うち単独分	7,892,648	46,020	35.2	32,621	21.3	13.9
H22	8,875,490	51,913	▲17.1	50,804	▲1.4	▲15.7
うち単独分	5,440,382	31,821	▲30.9	30,480	▲6.6	▲24.3
過去5年間平均	9,869,970	57,362	▲4.4	47,300	2.1	▲6.5
うち単独分	6,662,293	38,711	▲8.3	29,412	0.5	▲8.8

(5) 実質収支比率等に係る経年分析 (市町村)




平成22年度

宮崎県都城市

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

区分	年度	H18	H19	H20	H21	H22
 財政調整基金残高		9.98	9.53	9.41	9.23	8.91
 実質収支額		2.73	2.77	2.71	2.67	2.67
 実質単年度収支		0.15	1.03	1.01	1.29	2.25

分析欄

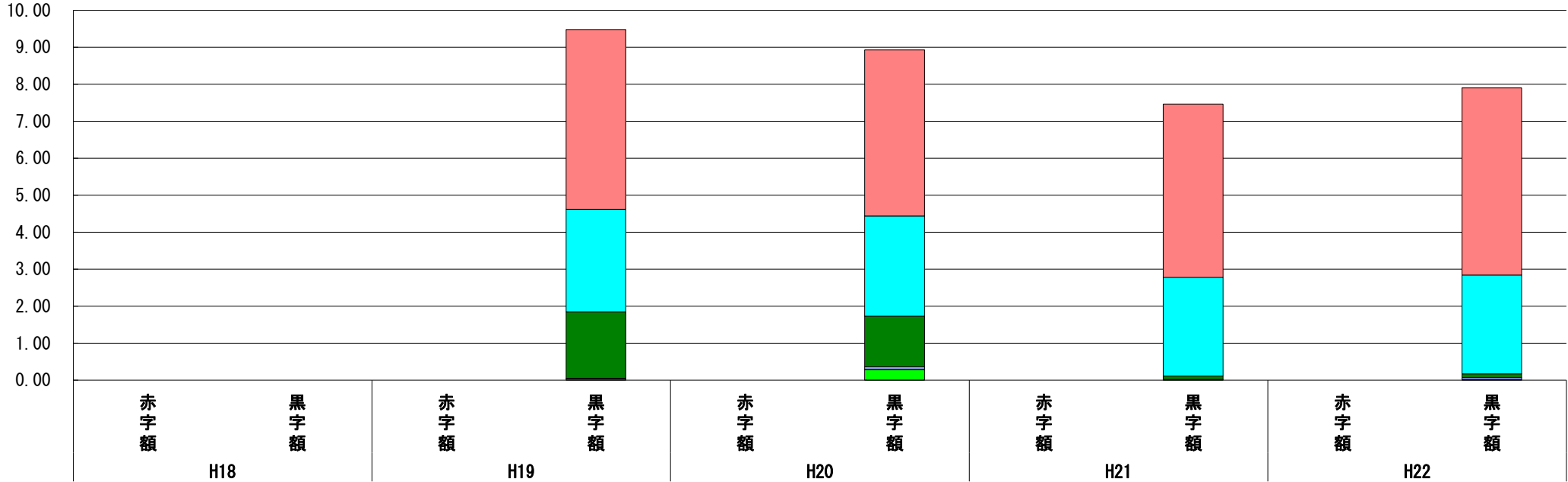
財政調整基金残高については平成18年度から22年度までの5年間、同規模の残高となっており、普通交付税や臨時財政対策債発行可能額の伸びの影響を受け標準財政規模が増加していることから、標準財政規模比で見ると毎年比率が下がっている。実質収支額については毎年度ほぼ同様な比率を保っている。実質単年度収支については、積極的な繰上償還の実施を受け繰上償還額が毎年度増加しているため、比率が伸びているものである。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成22年度

宮崎県都城市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

年度		H18	H19	H20	H21	H22
水道事業会計		-	4.86	4.49	4.68	5.06
一般会計		-	2.77	2.71	2.67	2.67
国民健康保険特別会計（事業勘定）		-	1.80	1.37	0.09	0.10
後期高齢者医療特別会計		-	-	0.07	0.02	0.05
都城市電気事業特別会計		-	0.01	0.01	0.00	0.01
都城市簡易水道事業特別会計		-	0.00	0.00	0.00	0.01
都城市御池簡易水道事業特別会計		-	0.00	0.00	0.00	0.00
介護保険特別会計		-	0.04	0.28	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		-	0.00	0.00	0.00	0.00

分析欄

水道事業会計の構成比率が0.38%増えている。その要因は、水道事業会計剰余額の増（対前年度比+232百万円）である。なお、水道事業会計剰余額の増は、現金・預金の増額による流動資産の増（対前年度比+210百万円）、及び未収金の回収による流動負債の減（対前年度比▲19百万円）が挙げられる。
 今後も、計画的な行財政改革を進め、健全な財政運営に努めるものである。

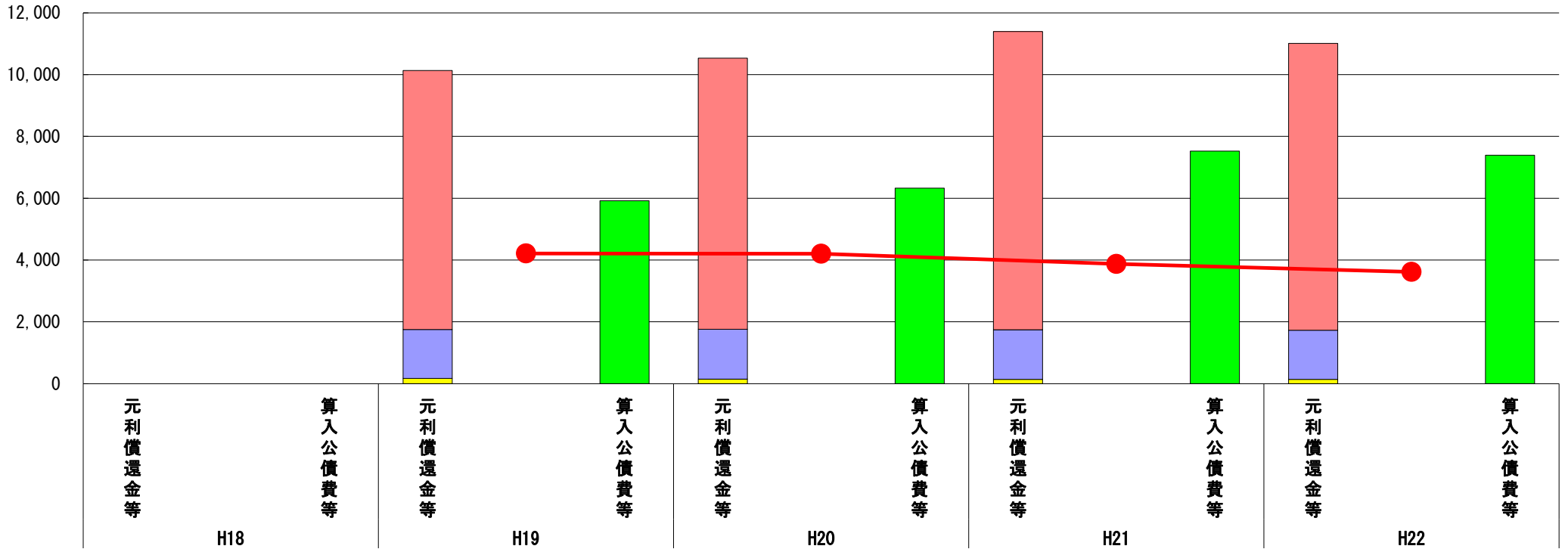
※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

宮崎県都城市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H18	H19	H20	H21	H22
元利償還金等(A)	元利償還金	-	8,382	8,774	9,655	9,286	
	積立不足額考慮算定額	-	-	-	-	-	
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-	
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	-	1,577	1,614	1,607	1,590	
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	-	-	
	債務負担行為に基づく支出額	-	171	143	136	136	
	一時借入金利息	-	-	-	-	-	
算入公債費等(B)	算入公債費等	-	5,916	6,326	7,525	7,394	
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	-	4,214	4,205	3,873	3,618	

分析欄

実質公債費比率の分子の減(対前年度比▲255百万円)の主な要因は、元利償還金の減額(対前年度比▲369百万円)が挙げられる。これは、計画的な償還を推進するとともに、新規の市債発行額を抑制した成果である。

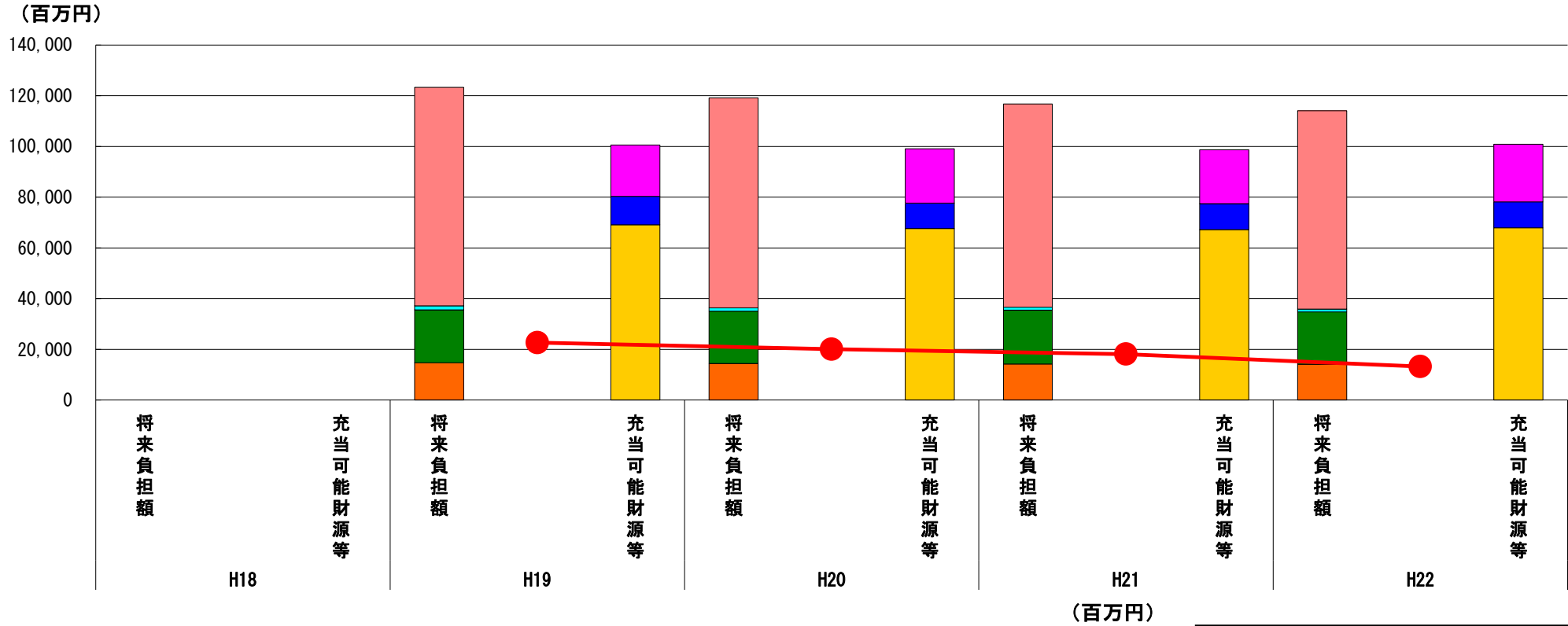
※平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は積立不足額を考慮して算定した額を含んでいる。

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

宮崎県都城市



分子の構造		年度	H18	H19	H20	H21	H22
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高	-	86,150	82,746	80,175	78,268	
	債務負担行為に基づく支出予定額	-	1,528	1,241	1,122	1,005	
	公営企業債等繰入見込額	-	20,826	20,660	21,236	20,718	
	組合等負担等見込額	-	-	-	-	-	
	退職手当負担見込額	-	14,752	14,439	14,258	14,094	
	設立法人等の負債額等負担見込額	-	-	-	-	-	
	連結実質赤字額	-	-	-	-	-	
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	-	
充当可能財源等 (B)	充当可能基金	-	20,258	21,415	21,226	22,686	
	充当可能特定歳入	-	11,213	9,960	10,186	10,295	
	基準財政需要額算入見込額	-	69,137	67,665	67,258	67,872	
(A) - (B)	将来負担比率の分子	-	22,648	20,047	18,121	13,233	

分析欄

将来負担比率の分子の減(対前年度比▲4,888百万円)の主な要因は、地方債現在高の減(対前年度比▲1,907百万円)と充当可能基金の増(対前年度比+1,460百万円)が挙げられる。

地方債現在高の減は、繰上償還を積極的に行うとともに、市債発行額を抑制したことによる。

- 償還額 8,946百万円(うち繰上償還額921百万円)
- 市債発行額 7,038百万円

充当可能基金の増は、将来の負担に備え、公共施設等整備基金(対前年度比+920百万円)及び減債基金(対前年度比+267百万円)などを増額したことによる。

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。